

2022年度持田記念学術賞ならびに研究助成等について

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団（理事長：持田直幸、以下「当財団」）は2022年度の持田記念学術賞受賞者、ならびに研究助成金および留学補助金交付対象者を決定しましたのでお知らせいたします。

今年度の持田記念学術賞には20名の研究者が推薦され、その中から慶應義塾大学の岡野栄之博士と九州大学の中山敬一博士を選出しました（褒賞金：1000万円/件）。研究助成および留学補助には627件の申請があり、研究助成金交付対象者137名（300万円/件）、留学補助金交付対象者20名（50万円/件）を選出しました。

今年度は研究者招聘助成金交付対象10学会（50万円/件）を含めて研究助成金等として総額4億4600万円を贈呈します。

研究領域		研究助成	留学補助	学術賞	招聘助成
領域1	バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究	16件	2件	2件	10件
領域2	バイオ技術を基盤とするゲノム機能/病態解析に関する研究	20件	3件		
領域3	免疫/アレルギー/炎症/感染症の治療ならびに制御に関する研究	32件	4件		
領域4	循環器/血液疾患の病態解析/治療制御に関する研究	26件	6件		
領域5	創薬・創剤の基盤に関する研究	23件	2件		
領域6	創薬とその臨床応用に関する研究	20件	3件		
合計		137件	20件	2件	10件

当財団は1983年10月の設立以来、研究助成2606件（計53億8499万円）、留学補助591件（計2億9550万円）、持田記念学術賞78件（計4億3200万円）、研究者招聘助成299件（計1億4896万円）の総額62億6145万円の助成ならびに贈呈を行っております。当財団は、今後も多くの研究者へ研究支援を行い、医学・薬学の振興に貢献してまいります。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団 zaidan@mochida.co.jp

2022年度持田記念学術賞受賞者

岡野 栄之（おかの ひでゆき）博士

慶應義塾大学 医学部

生理学教室 教授

受賞研究テーマ

「幹細胞生物学に基盤をおいた中枢神経系疾患の再生医療と
創薬の研究とその臨床応用」



岡野博士は 1990 年代にショウジョウバエの神経発生に異常を示す変異体の中から、RNA 結合蛋白質 Musashi の変異体を同定し、米国との共同研究により Musashi を指標として用いてヒト成体脳に神経幹細胞が存在することを世界で初めて明らかにしました。その後、ヒト成体脳由来神経幹細胞、ヒト胎児脳由来神経幹細胞を FACS により分離することに成功しました。

また、基礎 - 臨床共同研究チームを構築し、亜急性期脊髄損傷症例に対してヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療の世界最初の移植手術を行っています。さらには、精神・神経疾患の患者由来の iPS 細胞を樹立し、ALS の試験管における病態再現に成功し、既存の医薬品の中から新規の ALS 治療薬候補として選定しました。ALS 患者を対象とした医師主導治験を行い、安全かつ効果的な治療法であることを明らかにし、iPS 細胞創薬の有用性を示しました。

岡野博士は幹細胞研究に基軸をおいて、中枢神経系の発生と再生に関する基礎研究に取り組み、中枢神経系の再生医療と疾患の病態解析そして創薬研究へと展開し、さらには臨床応用まで進めており、世界を先導する先見的・独創的な研究業績であります。

- 主な略歴 1959 年 1 月 26 日生
- 1983 年 3 月 慶應義塾大学 医学部 卒業
- 1983 年 4 月 慶應義塾大学 医学部生理学教室 助手
- 1985 年 8 月 大阪大学 蛋白研究所 助手
- 1989 年 10 月 米国 Johns Hopkins 大学 医学部 研究員
- 1992 年 4 月 東京大学 医科学研究所 助手
- 1994 年 9 月 筑波大学 基礎医学系 教授
- 1997 年 4 月 大阪大学 医学部 教授
- 2001 年 4 月 慶應義塾大学 医学部生理学教室 教授

○主な受賞歴

2009 年 紫綬褒章 2014 年度 ベルツ賞 2020 年度 高峰記念第一三共賞 2021 年度 上原賞

2022年度持田記念学術賞受賞者

中山 敬一（なかやま けいいち）博士

九州大学 生体防御医学研究所

分子医科学分野 主幹教授

受賞研究テーマ

「細胞周期制御の異常による発がんの分子機構解明」



中山博士は、細胞周期制御の基本メカニズムを研究し、世界で初めて細胞周期を負に制御するCDKインヒビターの欠失が腫瘍発生の原因になり得ることを示しました。

また、CDKインヒビターががん幹細胞の長期生存や抗がん剤耐性の原因になっていることを明らかにしました。さらにCDKインヒビターやc-Mycのタンパク質分解を誘導する因子としてSkp2およびFbxw7という2つのユビキチンリガーゼを同定し、がんとの関係を明らかにしました。特にFbxw7とp57が細胞周期からの脱出および静止期維持に必須の分子であることを突き止め、Fbxw7を欠失させることによりがん幹細胞を増殖させて抗がん剤で撲滅するという「静止期追い出し療法」を考案し、実際にマウスのがんを撲滅することに成功しました。また、自身で開発した次世代プロテオミクス技術を用いてがん代謝の窒素代謝シフトを解明し、それに基づくPPAT阻害薬の開発を進めており、小細胞肺がんの治療につながると期待されています。

中山博士のこれらのがん幹細胞における細胞周期の制御に基づく発がんの分子機構の解明はがん治療に貢献することが期待されており、世界を先導する先見的・独創的な研究業績であります。

- 主な略歴
- 1961年12月25日生
 - 1986年3月 東京医科歯科大学 医学部 卒業
 - 1990年3月 順天堂大学 大学院医学研究科 修了 博士号取得
 - 1990年4月 理化学研究所 フロンティア研究員
 - 1990年12月 米国 Howard Hughes Medical Institute 博士研究員
 - 1996年10月 九州大学 生体防御医学研究所 教授 (2009年5月より主幹教授)
 - 2011年6月 九州大学 ヒトプロテオーム研究センター センター長 (兼任)
 - 2015年4月 九州大学 生体防御医学研究所
トランスオミクス医学研究センター センター長 (兼任)

○主な受賞歴

2010年度 井上学術賞 2017年度 小林がん学術賞 2018年度 安田医学賞 2021年 紫綬褒章